令和7年産

大崎麦作情報　第4号

令和７年４月１４日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL:0229-91-0726　FAX:0229-23-0910
https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/

～今後の管理のポイント～

〇収量・品質向上のために追肥を行いましょう。
〇赤かび病防除を徹底しましょう。
〇排水対策を徹底しましょう。

1　気象経過

- 気温は、２月第６～３月第３、５、６半旬は高温で推移しました。
- 日照時間は、３月以降の高温期は多照で推移し、４月上旬は少照傾向でした。
- 降水量は、高温期は少雨でしたが、３月第１半旬 18.5 ㎜(一部降雪)、第４半旬 24.5 ㎜、４月第１半旬に 14 ㎜の降雨がありました。

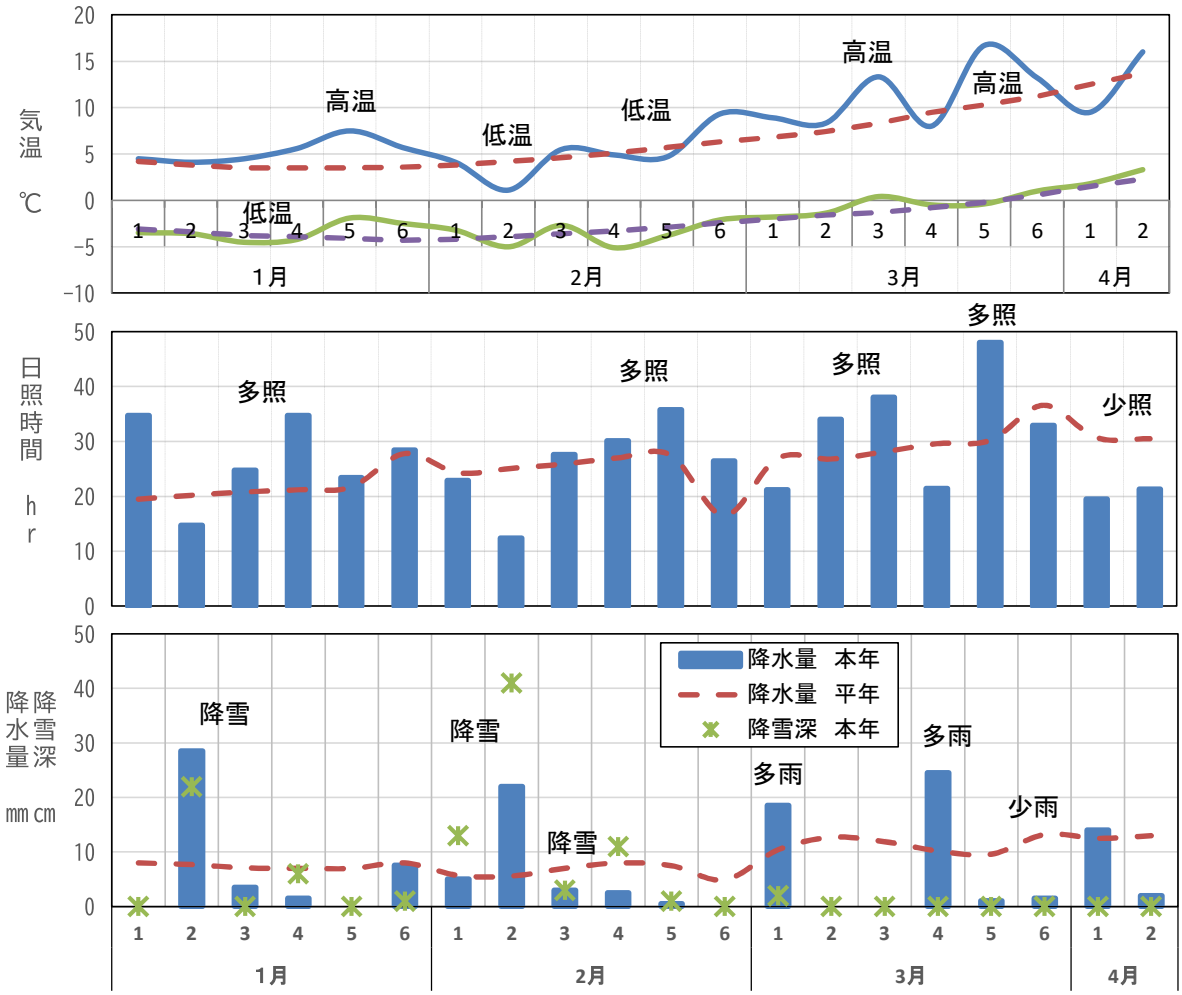


図１　気象経過（古川アメダス）
※実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値。

2　生育状況（4月10日現在）

小麦「シラネコムギ」

- 生育量は、草丈は 28.1 ㎝（平年比 99%）と平年並、茎数は 927 本/㎡（平年比 88%）と平年を下回っており、葉色が 41.6 と前回調査より低下しています。
- 幼穂長は 4.1 ㎜（平年差-1.0 ㎜）で、節間伸長が始まり茎立期を迎えています。
- 一部ほ場ではスズメノテッポウやタネツケバナなどの雑草の発生が見られます。

表１　「シラネコムギ」生育調査結果

地区名 品種名	前作	比較	播種日	3/20 草丈（cm）	3/20 茎数（本/㎡）	3/20 幼穂長（mm）	3/20 葉色（GM値）	3/20 葉身窒素濃度%※1	3/20 生育量指数※2	4/10 草丈（cm）	4/10 茎数（本/㎡）	4/10 幼穂長（mm）	4/10 葉色（GM値）	4/10 葉身窒素濃度%※1	4/10 生育量指数※2
古川 シラネコムギ	移植水稲	本年	10/19	12.4	1222	1.3	48.2	4.0	72.7	28.1	927	4.1	41.6	2.4	108
		前年差・比	-1	64%	73%	-0.6	-	-	-	76%	73%	-2.3	-	-	-
		平年差・比	-5	93%	128%	+0.2	-	-	-	99%	88%	-1.0	-	-	-
	乾田直播水稲	本年	10/22	13.9	920	1.4	38.9	2.5	49.7	27.3	787	4.3	36.3	2.1	77.9
	子実とうもろこし	本年	10/22	14.8	821	1.3	41.8	3.0	50.6	29.7	703	4.2	36.1	2.0	75.2

※1 葉身窒素濃度%は葉色からの推定値で期待値は幼穂形成期 3.5%、減数分裂期 2%

※2 生育指標は ㎝ 草丈×茎数/㎡×葉色値（×万）で目安は幼穂形成期 86 万、減数分裂期 155 万

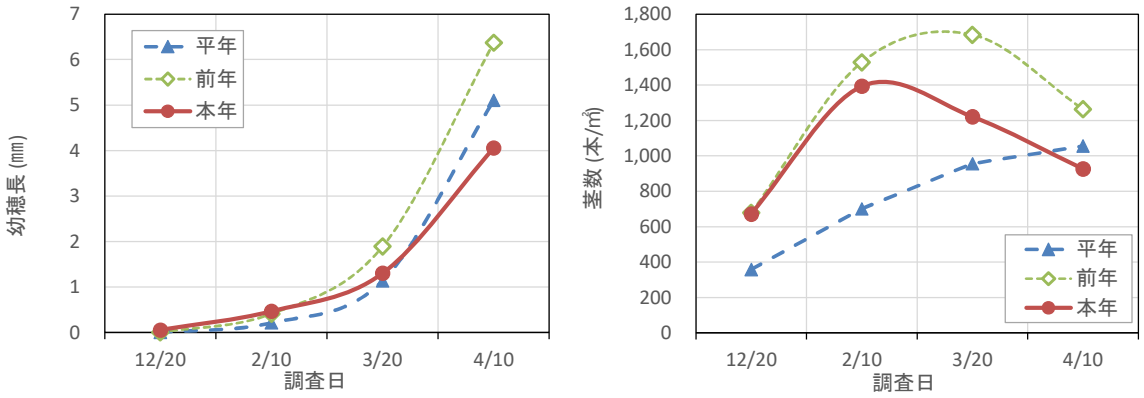


図２　生育調査ほにおける幼穂長（右）と茎数（左）の推移

写真　生育状況（左：幼穂、中：調査区、右：調査ほ場全景）

3　今後の生育ステージの見通し

● 「シラネコムギ」の今後の生育ステージは、減数分裂期が平年並の４月 27 日頃、出穂期が１日遅い５月７日頃と予測されます（表２）。

表２　「シラネコムギ」幼穂長による生育ステージ予測

地区名 品種名	前作	比較	播種日	4/10 幼穂長（mm）	減数 分裂期	出穂期	開花期
古川 シラネコムギ	移植水稲	本年	10/19	4.1	4/27	5/7	5/17
		前年差	-1	-2.3	+6	+8	-
		平年差	-5	-1.0	±0	+1	-
	乾田直播 水稲	本年	10/22	4.3	4/26	5/6	5/17
	子実とう もろこし	本年	10/22	4.2	4/26	5/6	5/17

※　平年差は、過去５か年（令和２年～令和６年産）の平均値との比較

※　普及に移す技術第 97 号麦類の生育ステージ予測シートと気象庁２週間予測を基に予測

4　今後の管理

(１)追肥

幼穂長や葉耳間長を確認し、適期の追肥を行いましょう。特にこの時期は幼穂長が１日で５㎜程度伸びるので、適期を逃さないように注意しましょう。

表３　「シラネコムギ」追肥判断の生育量目安と施肥量の目安

追肥の時期	幼穂形成期 （幼穂長２～３㎜）	減数分裂期 （幼穂長３０～５０㎜）	穂揃期 （８～９割出穂）
目的	有効茎歩合増加 （穂数の確保）	一穂粒数の増加 登熟良化	子実タンパク質含有率 の向上
追肥時期	３月下旬	４月下旬	５月上旬
生育指標目安	86 万	155万	142万～153万
葉色(GM値)目安	45	37	40
葉身窒素濃度%の目安	3.5	2	2.2
N成分量（kg窒素/10a）	2.5	2.5～5	2.5
硫安の場合（kg現物/10a）	11.9	11.9～23.8	11.9
尿素の場合（kg現物/10a）	5.4	5.4～10.9	5.4

【減数分裂期の判断方法】

減数分裂期の目安は、幼穂長がおよそ３０～５０㎜ であり、止葉葉耳間長から幼穂長を推定し、減数分裂期の追肥時期の目安とすることができます。

「シラネコムギ」では「４～５割の茎が止葉葉耳間長±０㎜以上に達したとき」が追肥の目安となります。

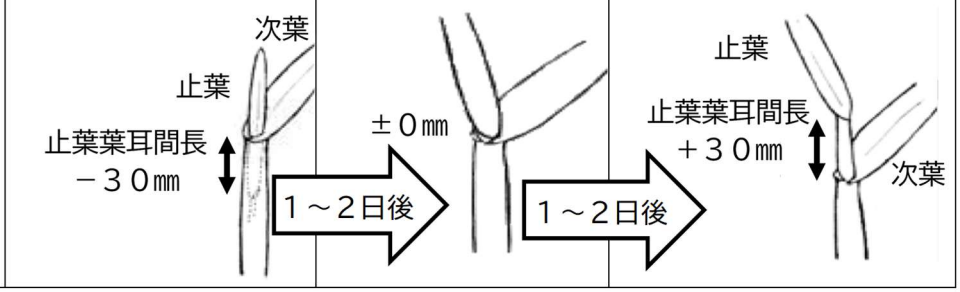
幼穂長	３０㎜	４０㎜	５０㎜
葉耳間長	－３０㎜	＋３㎜	＋３０㎜
葉耳間長の形態的推移			

図３　「シラネコムギ」葉耳間長の形態的推移

（２）赤かび病防除

- **赤かび病とは？**

赤かび病は、穂の一部あるいは全部が褐色となる病害です。発生源は、主に汚染種子内の菌糸や被害わら、こぼれた麦上に形成された病原菌（子のう殻）です。赤かび病は開花期が最も感染しやすく、開花期に降雨が多いと発生しやすくなります。

- **赤かび病の防除体系**

赤かび病防除は２回の薬剤防除が基本になります。１回目の防除は「開花始期～開花期」、２回目の防除を「１回目の７～１０日後」に行いましょう。２回防除後に降雨が続く場合は、蔓延のおそれがあるため追加防除を行いましょう。

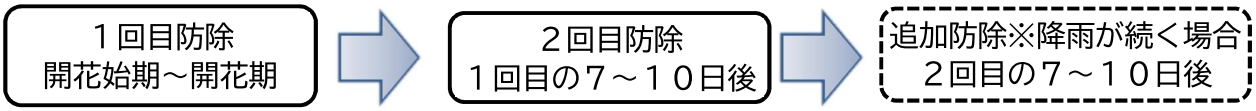


図４　赤かび病防除体系

（３）排水対策

麦は湿害に弱い作物です。節間伸長期から登熟期にかけては特に要注意で、一般に地温が上昇してからの被害は大きくなります。ほ場に水を停滞させないように排水対策を徹底しましょう。

- 明きょ…手直し、管理機等で溝を作り、排水口まで繋げましょう。
  前作水稲ほ場では、稲わらが排水口に詰まっていないか確認しましょう。
- 暗きょ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。
- 湿害の影響

○節間伸長期～出穂
根の機能障害、弱小分げつの枯死、穂数の減少、穂の縮小化

○出穂期以降
稈の伸長抑制、粒の充実不良のため千粒重が軽くなり、収量・品質が低下

東北地方１か月予報　（４月１２日から５月１１日までの天候見通し）
令和７年４月１１日　仙台管区気象台発表　※抜粋

＜予想される向こう1か月の天候＞
暖かい空気に覆われやすいため、向こう１か月の気温は高く、特に期間のはじめはかなり高くなる見込みです。

＜向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率(％)＞

		低い(少ない)	平年並	高い（多い）
【気　　温】	東北地方	１０	３０	６０
【降 水 量】	東北地方	２０	４０	４０
【日照時間】	東北地方	５０	３０	２０

＜気温経過の各階級の確率(％)＞

		低い	平年並	高い
１　週　目	東北地方	１０	２０	７０
２　週　目	東北地方	１０	３０	６０
３～４週目	東北地方	２０	４０	４０

◆◆◆◆◆◆◆◆農作業安全確認運動（３月１日～６月３０日）◆◆◆◆◆◆◆◆

令和７年スローガン　「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

「大崎地域の稲作技術情報」,「大崎地域の大豆作技術情報」,「大崎地域の麦作技術情報」は，当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右の QR コードを読み取ってください。